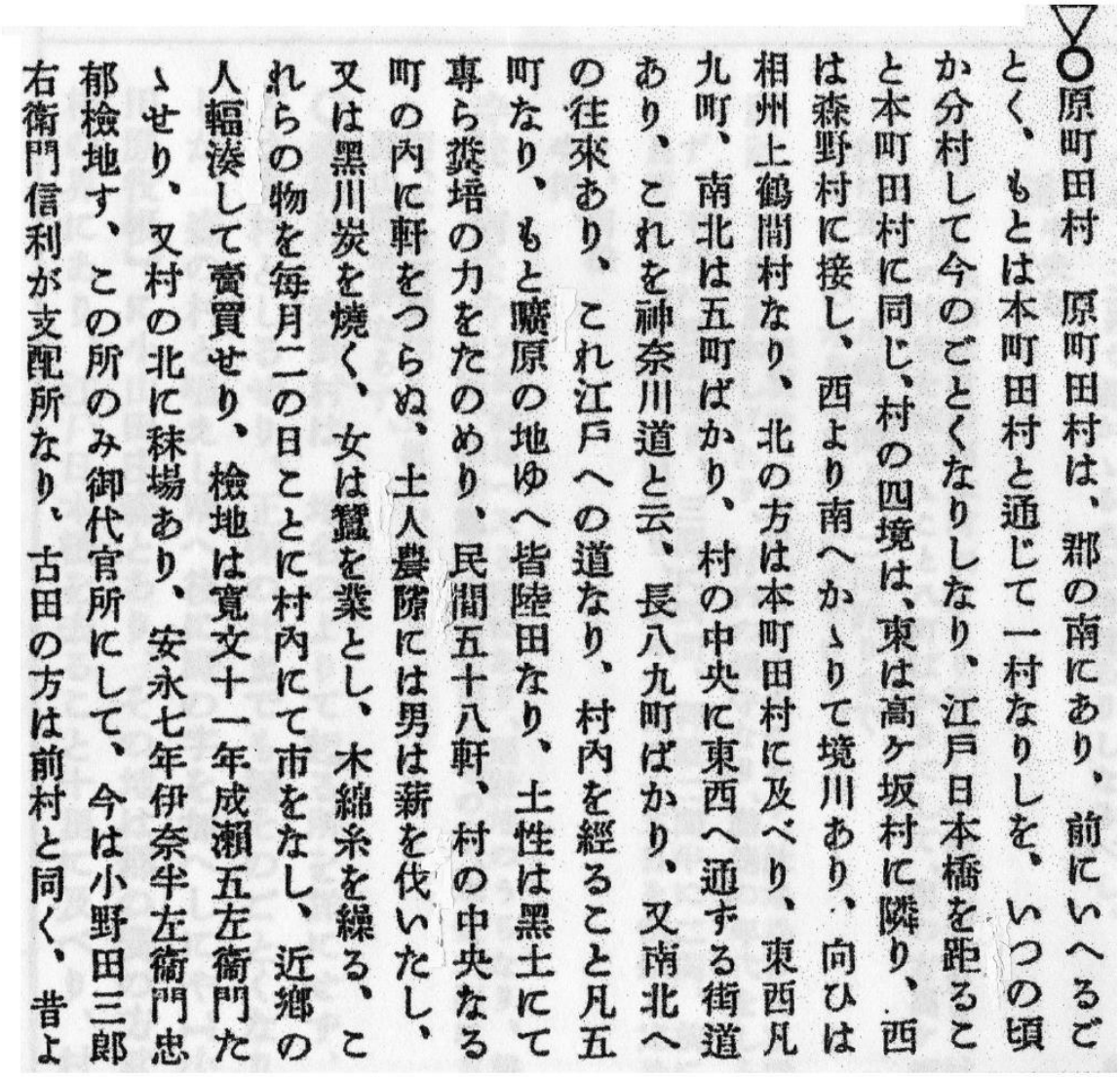
○読書会「新編武蔵風土記稿Ⅰ」とは

『新編武蔵風土記稿』は、江戸後期に幕府が編纂した地誌で、村の様子が体系立てて記述されてた基本的な史料です。風土記Ⅰでは**町田市内 27 ヶ村**を読み進めます。

・対象：郷土史学習の入門編です。HATS 卒業後に最初に入会することをお勧めします。
・特徴：現地を訪ねながら、村の成り立ちを調べることができます。
・日時：毎月１回、最終月曜日の９：30～12：00。
・場所：市民フォーラム４階の活動室Ａ
・定員：24 名
・テキスト（入会時にお渡しします）
　(1)『新編武蔵風土記稿』（雄山閣版）＜町田市域の抜粋＞
　(2)「町田市域の領主」（読書会有志の作成）
　(3)「読書会参考資料」（読書会有志の作成）
・申込：入会金 1,200 円（資料代を含む）。まずは見学してから入会をお決めください。
　　連絡先は「史考会だより」をご覧ください。

＜ひとこと＞

みんなの発表を手助けに、楽しく学べます。生涯学習センターまつりにも出展しています。



○原町田村　原町田村は、郡の南にあり、前にいへるごとく、もとは本町田村と通じて一村なりしを、いつの頃か分村して今のごとくなりしなり、江戸日本橋を距ること本町田村に同じ、村の四境は、東は高ケ坂村に隣り、西は森野村に接し、西より南へかゝりて境川あり、向ひは相州上鶴間村なり、北の方は本町田村に及べり、東西凡九町、南北は五町ばかり、村の中央に東西へ通ずる街道あり、これを神奈川道と云、長八九町ばかり、又南北への往來あり、これ江戸への道なり、村内を經ること凡五町なり、もと曠原の地ゆへ皆陸田なり、土性は黒土にて專ら糞培の力をたのめり、民間五十八軒、村の中央なる町の内に軒をつらぬ、土人農隙には男は薪を伐いたし、又は黒川炭を燒く、女は蠶を業とし、木綿糸を繰る、これらの物を毎月二の日ことに村内にて市をなし、近郷の人輻湊して賣買せり、檢地は寛文十一年成瀬五左衛門たゝせり、又村の北に秣場あり、安永七年伊奈半左衛門忠郁檢地す、この所のみ御代官所にして、今は小野田三郎右衛門信利が支配所なり、古田の方は前村と同く、昔よ